

# ユビキタスネットワーク時代における 電子タグの高度利活用に関する調査研究会(第3回)議事要旨

## 1 日時

平成15年7月17日(火)17:30~19:00

## 2 場所

総務省 統計局 大会議室

## 3 出席者

### (1) 調査研究会構成員(50音順、敬称略)

青木 昭明(代理)、縣 厚伸、有薊 徹、伊土 誠一、今井 秀樹、内永 ゆか子(代理)、瓜生 直樹、大山 永昭、大西 弘到、金子 郁容、川辺 守彦(代理)、國井 秀子(代理)、児玉 駿(代理)、齊藤 忠夫、坂村 健(代理)、篠本 学(代理)、高岡 博史、築山 宗之、徳田 英幸、西村 清司、二木 治成(代理)、堀田 徹哉、松尾 義武、三木 彬生(代理)、村上 輝康、村上 仁己、安田 靖彦、大和 敏彦、若尾 正義(代理)

### (2) 総務省(事務局)

石原大臣官房技術総括審議官、稲田技術政策課長、武井情報流通振興課長、金谷通信規格課長、富永移動通信課長、渡辺研究推進室長、岡野マルチメディア移動通信推進室長、藤本通信規格課標準化推進官

## 5 議事

### (1) 開会

### (2) 前回議事録の確認

### (3) 議事

各ワーキンググループ中間報告について

- ・資料3-2に基づき、無線システムワーキンググループの中間報告が行われた。
- ・資料3-3に基づき、ネットワーク利用ワーキンググループの中間報告が行われた。

主な意見は以下の通り。

- ・距離や電力といったことについては、実証実験を進めながら議論していきたい。
- ・将来のユビキタス的な利用を考えたとき、特定のアプリケーションでどうしても必要だから電力を大きくするということが、「より広い利用」のためになるかどうかということは、大きな問題だと思う。
- ・海上コンテナであれば、港だけつかえれば良いといった、アプリケーションによる必然性があれば、そういうところに限って利用するという事もあると思う。
- ・米国においては、902~928MHzのISMバンドで電子タグが使えるようになっているが、こ

のバンドは、北米・南米 (ITUで定める第2地域) だけであり、ヨーロッパ・アジア・オセアニアでは、ISMバンドになっていない。ヨーロッパにおいては、868MHzの周辺の2MHz幅をショートレンジシステム用にしており、タグにも使える。このように米国、欧州でそれぞれ違う周波数しか見つけることが出来なかった。

- ・我が国では、米国・欧州のそれぞれで使われている周波数が携帯電話等に使われているので、米国・欧州に出来るだけ近い周波数ということで、950MHzを今回候補周波数とした。ISOの中でも、ここのバンドの標準化については、860～930MHzという非常に広い呼び方で標準化をしようと議論がなされている。日本の部分も含めて国際標準化されることに期待しているところ。
- ・電子タグは、ICチップとアンテナから構成されるが、800/900MHz帯で利用する場合、ICチップについては、周波数の「ずれ」は考慮する必要はない。アンテナについては、欧州の端から、日本の端まででおよそ100MHz幅であるが、このくらいの幅は対応することが可能。
- ・電子タグを3周波数に対応するように作り、リーダーはそれぞれの国で使える周波数を実装すると、既存システムに迷惑をかけず国際物流に使用することが出来る。
- ・セキュリティ等の社会的影響に関する周知活動については、「個人の保護」もさることながら、「社会保護」という事について、もうすこし強調しても良いのではないかと。目先の利益、便利だけでなく、長期的な視野に立ち、社会・人体・環境・生活に対しても、敵対的ではなく友好的で有用なものであり、それを検証・確認する仕組みも考えていく、ということを強調したらどうか。
- ・米国では、「CASPIAN (Consumers Against Supermarket Privacy Invasion and Numbering)」という消費者運動が出ており、電子タグの普及に影響を及ぼしている。日本でもこのような動きが出てくる可能性がある。これから国が何らかの形で関与してアプリケーションを考えると、社会にどう役立つのかという実証実験も行って、それを発信していくということも、バランスをとるためにも必要なのではないかと。
- ・ある高級婦人服メーカーは、在庫管理の合理化等を表に出すのではなく、お客様に高いイメージのサービスを提供するための演出として電子タグを使い、テスト店舗では成功している様だ。エンドユーザーの価値というところにも、多様な狙いがあると考えられるので、幅の広いエンドユーザー価値を強調した方が良いとも感じる。
- ・日本のユビキタス環境は、非常に進んでおり、かつ、それが安い国である。一方で、日本発の技術は、苦労している部分もあるので、日本発の技術を広く世界に認めてもらうために、なんらかの戦略が必要になると感じている。
- ・ITUのWSIS (国連世界情報社会会議) が年末に行われるが、この場合は、日本のこの分野における先進性を、世界にデモンストレートする良い場ではないかと。
- ・電子タグについては具体的な狙いなどが書いてあるが、実証実験をやっている人間の意見を聞くと、貨物・物流等のリーダー/ライターとなると高価というイメージがあるようだ。電子タグだけでなく、リーダー/ライターについても、研究開発する必要があり、システムトータルとしてのコストも研究のテーマとする必要があると感じている。
- ・リーダー/ライターのコストの問題や、バックエンドのアーキテクチャ、IDとIPv6のアドレ

ッシング体系について等、詰めなければならない問題が残っている。まだ中間報告であり、若干の穴がある部分もあるので、もう少し精査したいと思う。

・プラクティカルな利用イメージが並んでいるが、必ずしもプラクティカルではないが、子供に夢を与える様なイメージもいくつかあると、幅が広がるのではないか。そういう物も、ネットワークにつながれば、後に必ず経済効果が出てくる。

#### その他

・事務局より、資料3 - 4に基づき、本調査研究会の中間とりまとめに盛り込むべき事項の調査について説明がなされた。

・次回会合は8月1日(金)15:00~を予定とする旨の説明がなされた。

#### (4) 閉会

#### 5 配布資料

資料3 - 1 ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会第2回会合 議事録(案)

資料3 - 2 無線システムワーキンググループ中間報告(無線システムWG)

資料3 - 3 ネットワーク利用ワーキンググループ中間報告(ネットワーク利用WG)

資料3 - 4 ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会中間とりまとめに盛り込むべき事項について

参考資料1 ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会第2回 議事要旨

参考資料2 ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会 開催要綱

(以上)